

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメントベーシック I) Core Management Basic I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	エアライン	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
【担当教員_実務者経験】							
ブライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。							
【授業の学習内容】							
脳の仕組みを理解し、コミュニケーション力を鍛える。							
【到達目標】							
コアマネジメントにおける自分のパターン・気質フォートロジー®を知ることで、周りの人と円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。また、他者との折衝において、ストレスを溜めにくいコミュニケーション技法を習得することができる。							

授業計画・内容	
1・2回目	コアマネジメントにおける「学習の4段階」を理解し、本単元における学習の仕方を習得することができる。
3・4回目	気質(フォートロジー®)テスト診断を行い、自分の現状の気質を理解することができる。
5・6回目	診断テスト結果に基づき、自分の現状の気質を分析することができる。
7・8回目	現状の状態から望む未来に行くにはどのような思考が必要かを理解することができる。
9・10回目	アウトカムの設定①: 目標設定の意義を理解することができる。
11・12回目	アウトカムの設定②: 目標の作り方を習得することができる。
13・14回目	気質を利用した実際のコミュニケーションを体験し、その流れの理解することができる。
15・16回目	気質「春」「夏」におけるコミュニケーション方法の特性を理解することができる。
17・18回目	気質「秋」「冬」におけるコミュニケーション方法の特性を理解することができる。
19・20回目	キャリブレーションとラポール①: 気質を判断するために、どのように他者を観察すべきかを習得することができる。
21・22回目	キャリブレーションとラポール②: 他者と信頼関係を創るまでのスキルを習得することができる。
23・24回目	言語のペーシングを習得することができる。
25・26回目	態度のペーシングを習得することができる。
27・28回目	肯定の場合、否定の場合に分けた人の行動形態を理解することができる。
29・30回目	自分自身がどのような行動形態をとるのか理解することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「制作課題の提出率および完成度」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
使用教本: コア・マネジメント・ベーシック テキスト	

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメントベーシックⅡ) Core Management Basic II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	エアライン科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	後期
【担当教員 実務者経験】							
プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。							
【授業の学習内容】							
脳の仕組みを理解し、コミュニケーション力を鍛える。							
【到達目標】							
コアマネジメントにおける自分のパターン・気質フォートロジー®を知ること、周りの人と円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。また、他者との折衝において、ストレスを溜めにくいコミュニケーション技法を習得する。							

授業計画・内容	
1・2回目	気質における各表象系システム(見方・聴き方・感じ方、記憶の仕方、発信の仕方)を理解することができる。
3・4回目	気質における表象系述語:気質によって同じ状況で選び取る述語がどのように違うかを理解することができる。
5・6回目	視線解析①:目の動きを解析する方法を習得することが出来る。
7・8回目	視線解析②:目の動きから他者の思考パターンを読み取ることができるようになる。
9・10回目	自分の気質におけるパーソナリティーを理解することができる。
11・12回目	自分の気質における弱点を理解し、改善することができる。
13・14回目	サブモダリティ:同じ物事でも、捉え方によって異なる体験となることを理解することができる。
15・16回目	マッチング:気質「春」における、それぞれの気質の他者との相性、効果的なコミュニケーション方法を理解することができる。
17・18回目	マッチング:気質「夏」における、それぞれの気質の他者との相性、効果的なコミュニケーション方法を理解することができる。
19・20回目	マッチング:気質「秋」における、それぞれの気質の他者との相性、効果的なコミュニケーション方法を理解することができる。
21・22回目	マッチング:気質「冬」における、それぞれの気質の他者との相性、効果的なコミュニケーション方法を理解することができる。
23・24回目	アンカーリング:思い込みの定着とは何かを理解し、効果的な利用法を習得することができる。
25・26回目	リフレーミング:より円滑なコミュニケーションを図るため、意図的に視点を変えるスキルを習得することができる。
27・28回目	気質によって課題に取り組む対応力が違うことを理解することができる。
29・30回目	自分の気質における、効果的な課題への対応方法・解決方法を習得することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「制作課題の提出率および完成度」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
使用教本:コア・マネジメント・ベーシック テキスト	

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティング I) Business Computing I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。						
【授業の学習内容】						
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。						
【到達目標】						
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		インターネットガイダンス(ITリテラシーの概要・理解度テスト・COMメールの使用方法)
2回目		Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①
3回目		Word② 入力練習・文書作成・編集② (効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる)
4回目		Word③ 入力練習・表の作成① (表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる)
5回目		Word④ 入力練習・印刷・図形(地図) (ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れる)
6回目		Word⑤ 入力練習・便利な機能 (検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる)
7回目		Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成 (ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる)
8回目		Word⑦ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
9回目		Word⑧ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
10回目		Word⑨ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
11回目		Word⑩ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
12回目		PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。画面構成)
13回目		PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ)
14回目		(入力習得度チェック/Wordの文書作成)
15回目		振り返り・PowerPoint③ 表やグラフの利用(プレゼンテーション可視化の必要性について知り、見栄えの良いスライドを作れるようになる)

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験80% ・前期提出物 20%
------	---

受講生へのメッセージ	
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】	
30時間でマスターWord&Excel2010	

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティングⅡ) Business computing II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科	エアライン科					曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。

【授業の学習内容】

情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。

【到達目標】

職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		PowerPoint④ 課題発表と準備(課題作成にあたり、デザインシートの作成やデータ収集が出来るようになる)
2回目		PowerPoint⑤ 課題作成と発表準備(効率よく課題作成や発表準備に取り組むことが出来るようになる)
3回目		PowerPoint⑥ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
4回目		PowerPoint⑦ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
5回目		PowerPoint⑧ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
6回目		Excel① 基本操作・データ入力・表の作成編集 (Excelの基本操作を知り、効率的な表編集が出来るようになる)
7回目		Excel② 数式と関数Ⅰ (Excelの数式や関数を扱えるようになり、業務で応用出来るようになる)
8回目		Excel③ 表の編集・条件付き書式 (見栄えの良い表作成と条件付き書式を使えるようになり、効率の良い業務に応用出来るようになる)
9回目		Excel④ グラフ作成・練習問題実施 (用途に合わせて、グラフを作成出来るようになる。また、練習問題を実施し、実力養成を図る)
10回目		Excel⑤ 印刷方法、シート操作、関数Ⅱ (印刷方法、シート間の入力方法、関数Ⅱを実施し、業務での応用が出来るようになる)
11回目		Excel⑥ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
12回目		Excel⑦ データベース機能 (データベース機能を学ぶ事により、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
13回目		振り返り 理解出来ていなかった点などを、クリアにする事により、スキルを高めよりExcelを利用出来るようになる。
14回目		Excel⑧ 総合演習Ⅰ (Excelの機能を利用して、演習問題に取り組む事により、ビジネス場面での応用が出来るようになる)
15回目		Excel⑨ 総合演習Ⅱ 出された課題に対して計算式や図形を用いて まとまった資料作成をする

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・後期試験 実技試験80%
・後期提出物 20%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

30時間でマスターWord&Excel2010
30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2010

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (書道 I) Japanese calligraphy I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義 実習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経歴】

1983年より書家としての活動をはじめ。日展作家。他、外部展(読売展:理事、全関西展:招待、日本の書展:招待)等に出品中。

【授業の学習内容】

硬筆では、日常文の60~70%を占めるひらがなの書き方を習得することで文章全体の印象をよくなり、そのうえで漢字の基本原則を学ぶ。
毛筆では、芳名帳、祝儀袋、招待状のあて名書き・返信ハガキにおける書のマナーを学び、心を尽くす。毛筆の表現を生かしアイデアを駆使してウエルカムボードを制作する。
人を思いやり文字を丁寧に書くことや道具を丁寧に扱うことを通して、自身の日常生活を見つめ直し、おもてなしやホスピタリティの精神を理解する一助とする。

【到達目標】

書の基本を身につけることができる。
書を通し、人やものに丁寧に接する姿勢を身につけ、日常生活においても生かせるようになる。
書における慶弔のマナーを身につけたうえで、心を込めて書くことで、最高のおもてなしができるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション シラバスの確認。 書道について。 硬筆文字診断。
2回目		(実習①) 硬筆 名前・住所が読みやすく書けるようになる。 毛筆 基本点画が書けるようになる。
3回目		(実習②) 硬筆 ひらがなに通じている線や、ひらがな特有の線が書けるようになる。 毛筆 基本点画を学び、生き生きとした線が書けるようになる。
4回目		(実習③) 硬筆 ひらがなの字源を知り、気脈を意識して書けるようになる。 毛筆 実習①の硬筆を生かし、小筆で名前と住所が書けるようになる。
5回目		(実習④) 硬筆 ひらがな46字をマスターすることで、実習①~のウエルカムボードの制作に生かせるようになる。毛筆 小筆で芳名帳を意識して書けるようになる。
6回目		(実習⑤) 硬筆 カタカナの字源を知ることで、整った字が書けるようになる。 毛筆 結婚式受付のロール・プレイングで芳名帳に記帳する。
7回目		(実習⑥) 硬筆 カタカナを通して漢字の要素が書けるようになる。 毛筆 祝儀袋のマナー理解して、小筆で結婚式の表書きを心を尽くして書けるようになる。
8回目		(実習⑦) 硬筆 あて名書きやウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 祝儀袋の中袋に記す金額を漢数字の大字で書けるようになる。
9回目		(実習⑧) 硬筆 あて名書きやウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 小筆で実際にお友達に渡す祝儀袋・中袋を完成させる。
10回目		(実習⑨) 硬筆 筆ペンで結婚式の招待状のあて名書き、ペン字で返信ハガキを心を込めて書けるようになる。
11回目		(実習⑩) 硬筆 実際に筆ペンで結婚式の招待状のあて名書き、ペン字で返信ハガキを書く。 毛筆 ウエルカムボードの原案を考える。
12回目		(実習⑪) 硬筆 ウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 ウエルカムボードに書く文字や言葉の練習をする。
13回目		(実習⑫) 硬筆 ウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 前回の実習を踏まえウエルカムボードに書く文字や言葉を清書する。
14回目		(実習⑬) 硬筆 ウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 心を込めてウエルカムボードを完成させる。
15回目		(実習⑭) 硬筆 オリエンテーションの文字診断を再度する。 制作したウエルカムボードについてプレゼンテーションを行う。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・実習⑤、⑧、⑩、⑬への取り組みと作品の提出状況の合計を100点とし、40%に換算する。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (茶道 I) tea ceremony I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
		授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
大学時に師に出会い入門。2009年専任講師取得。カルチャースクール講師アシスタントとして活動。						
【授業の学習内容】						
茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。						
【到達目標】						
茶道を学ぶことによってお辞儀、襖の開け閉め、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション: 茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。
2回目		和室での立ち振る舞い①: お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を学ぶ。
3回目		和室での立ち振る舞い②: 立ち方、歩き方、襖の開け方、お軸の拝見の方法を学ぶ。
4回目		和室での立ち振る舞い③: 水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を学ぶ。
5回目		割稽古①: 袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い薬と茶杓を清める。
6回目		割稽古②: 茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。
7回目		割稽古③: 茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までをとおして学ぶ。
8回目		盆略点前①: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。
9回目		盆略点前②: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。
10回目		盆略点前③: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまで通して学ぶ
11回目		盆略点前④: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。
12回目		盆略点前⑤: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。
13回目		和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。
14回目		和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。
15回目		振り返り: 試験の解説後、初回授業からの振り返りを行いお互いに心をこめてお茶を点てる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎筆記試験10点 + 実技試験90点
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキング I)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	
	Walking & Posture I	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
<p>大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にしていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。</p>							
【到達目標】							
<p>人前にて実際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。</p>							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目		立ち居振る舞い(正しい姿勢の4つのポイントについて理解できるようになる)
3回目		立ち居振る舞い(正しい歩き方のポイントを理解できるようになる)
4回目		正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。
5回目		動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
6回目		姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
7回目		姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
8回目		好印象を与える表情と笑顔について学ぶ(フェイスストレッチについて学ぶ)
9回目		面接の際の注意点を学ぶ(姿勢→歩き方→身だしなみについて)
10回目		動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。
11回目		ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけてくわえて、トータル的に美しく歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
12回目		途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで美しく歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
13回目		動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで美しく歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
14回目		総復習を行い、苦手な点を再度練習してできるようになる。
15回目		フィードバックを行い、出来ていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。そして前期の総復習ならびに前期終えての感想、反省点など後期の目標を改めて落とし込み後期への意識を高めることができるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・入退出時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか プラスα ・姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか 50%(筆記試験50%)
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
教科書は適時、配布 持ち物: スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物	

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン就職対策 I Airline Employment Measures I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西出 由佳 構木 成美
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員・実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
就職活動に必要な自己分析、企業研究、履歴書/エントリーシートの書き方、面接/筆記対策などを講義、演習を通して身に付けていく。							
【到達目標】							
まずは自分の言葉で自分自身について説明できるようになる。 火曜3限の「エアライン実務」とも連携し、就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動できるレベルになる。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れを説明。授業に向けての抱負、エアライン就職メイク講座を通して、目指す姿をイメージする。					
2回目		(自己分析①) 面接やエントリーシートで自分を存分に表現するために自分自身を振り返る。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
3回目		(自己分析②) 自分自身の長所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
4回目		(自己分析③) 自分自身の短所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
5回目		(企業研究①) エアライン業界における企業研究のコツを説明し、企業研究のイメージをつかむ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
6回目		(企業研究②) 企業研究を通して各企業の特徴を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
7回目		1～6回目の授業内容を反映した振り返りを実施し、今後の課題を認識・改善につなげることができる。					
8回目		(エントリーシートの書き方①) 書き方のポイント・表現力を学ぶ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
9回目		(エントリーシートの書き方②) 自己分析を活かして自己PRを書くことができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
10回目		(エントリーシートの書き方③) 企業研究を活かして志望動機を書くことができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
11回目		(面接対策①) 面接の流れ、基礎対策を説明。入室から退室までの一連の流れを確認し、イメージをつかむ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
12回目		(面接対策②) 模擬面接にて自己PRを伝えることができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
13回目		(面接対策③) 模擬面接にて志望動機を伝えることができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。					
14回目		面接ロールプレイング					
15回目		(総復習) 初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。 前期全体を通しての質疑応答を行い、自信を持って後期授業に臨むことができるようになる。					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使っている授業。 ・適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。 ・各授業終了前10分間は英語のみで授業を実施する。 							

授業シラバス

科目名 (英)	就職対策 (エアライン就職対策Ⅱ) Airline Employment Measures II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西出 由佳 構木 成美
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
就職活動に必要な自己分析、履歴書/エントリーシートの書き方、面接/筆記対策などを講義、演習を通して身に付けていく。							
【到達目標】							
木曜3限の「おもてなしセルフスタイリングⅡ」とも連携し、エアライン業界で求められるマナーを習得、就職活動にて企業様の前で実践できるレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れを説明。後期授業に向けての抱負、エアライン就職メイク講座を通して、就職活動への意識を高める。
2回目		(自己分析) 面接やエントリーシートで自分を存分に表現するために自分自身を振り返る。 (エントリーシートの書き方) 書き方のポイント・表現力を学ぶ。
3回目		(自己分析/他己分析) 自分自身の長所・短所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
4回目		(面接対策) 面接の流れ、基礎対策を説明。入室から退室までの一連の流れを確認し、イメージをつかむ。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
5回目		(面接①-1) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
6回目		(面接①-2) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
7回目		実際の採用試験を想定した筆記試験/面接事例を用いて、今後の課題を認識・改善につなげることができる。
8回目		(面接対策) 英語面接の基本対策を説明。 (面接②-1) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
9回目		(面接②-2) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
10回目		(面接③-1) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
11回目		(面接③-2) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
12回目		(面接対策) ビデオ撮影し、自身の姿を振り返り、改善につなげることができる。
13回目		(エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
14回目		初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。 SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
15回目		(総復習) 就職活動全体を通しての質疑応答を行い、自信を持って就職活動に臨むことができるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使っての授業。 ・適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。 ・各授業終了前10分間は英語のみで授業を実施する。 	

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEIC I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	TOEIC I	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、船後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。

【授業の学習内容】

TOEICスコアUPにつながる中学レベルの基本文法の習得とTOEICらしい英語表現(単語や熟語など)の解説を中心になりますが、ビジネスで用いる英語の中でどのようにTOEIC知識が役立つかの話もしたいと考えています。基本的な授業の流れは以下の通りです。

テキスト問題文の文法ポイント解説→日常会話の中での使われ方の話→音読→時間があれば「銀のフレーズ」の一部解説

【到達目標】

TOEICスコア600点突破を目指す。リスニング 320/495点、リーディング 280/495点。履歴書で注目されるTOEICスコアは800点からですが、平均スコアが580点ほどであることを考えると800の壁は高い。TOEIC600は、自分で英語を自由に学習できるようになるレベルを指します。この辺りから英語ができるようになってきたという自覚が生まれます。まずは、英語力アップの実感をこの前期で感じて欲しいと思います。ちなみに、600点を突破するためには、基礎がある日本人で、400時間程度の勉強時間が必要と言われていますので、皆さんの自宅学習のご協力なくして目標達成はあり得ません。皆さんは授業で伝えた情報を自宅ですっきりとインプットする努力をしてください。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション。TOEICスコアの伸ばし方、単語の覚え方が理解ができる。テキスト p.11-14 (HW: テキストp.11-14を復習)
2回目		品詞の区別ができるようになる。テキスト p.20-25 (HW: テキスト p.20-25をもう一度解く)
3回目		品詞の区別ができるようになる。テキスト p.26-31 (HW: テキスト p.26-31をもう一度解く)
3回目		形容詞と副詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.32-35 (HW: テキスト p.32-35をもう一度解く)
4回目		副詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.36-39 (HW: テキスト p.36-39をもう一度解く)
5回目		進行形/受け身/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.40-43 (HW: テキスト p.40-43をもう一度解く)
6回目		現在完了/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.44-47 (HW: テキスト p.44-47をもう一度解く)
7回目		冠詞/代名詞/前置詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.48-51 (HW: テキスト p.48-51をもう一度解く)
8回目		主語と動詞の関係を理解し、主語や伝えたい内容に合わせた正しい動詞の変化パターンを覚える。テキスト p.62-67 (HW: テキスト p.62-67をもう一度解く)
9回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.74-77 (HW: テキスト p.74-77をもう一度解く)
10回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.82-89 (HW: テキスト p.82-89をもう一度解く)
11回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.90-93 (HW: テキスト p.90-93をもう一度解く)
12回目		修飾表現のパターン。テキスト p.94-99 (HW: テキスト p.94-99をもう一度解く)
13回目		品詞、時制の復習。テキスト p.28-29, 50-51,
14回目		品詞、時制の復習。テキスト p. 82-83, 98-99/p.52-53
15回目		総括 振り返り

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・単語クイズ(銀のフレーズ) 10% × 2
・前期試験 20%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

TOEIC(R) L&Rテスト 英文法 ゼロからスコアが稼げるドリル(授業、前期試験対策で使用)
TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ(単語クイズ対策で使用)

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅡ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	TOEICⅡ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英会話」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英会話を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英会話を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英会話総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。

【授業の学習内容】

文法力に特化した前期とは違い、後期ではリスニング・長文対策を行う。同時に各パートの傾向を掴み、本番でも緊張せずに臨めるだけの知識を身に付ける。また、毎週単語テストを実施して語彙力の増加にも力を入れる。

【到達目標】

12月のTOEIC試験で500点を狙える実力をつけられるようになる。
また、就職してからも必要になるTOEICの勉強に備えて、自ら学ぶ方法を会得できるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		単語テスト / リスニング Part 1: TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
2回目		単語テスト / リスニング Part 2: TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
3回目		単語テスト / リスニング Part3: TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
4回目		単語テスト / リスニング Part4: TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
5回目		単語テスト / リーディング Part6 ①: 前期に習ったことを踏まえて少し長い文章でも文意を捉えることができるようになる。
6回目		単語テスト / リーディング Part6 ②・Part7 ①: たくさんの文章に触れることで、様々な形式の文章に対応できるようになる。
7回目		単語テスト / リーディング Part7 ②: Part7の解き方を習得することで、長文に対する苦手意識を克服できるようになる。
8回目		単語テスト / リーディング Part7 ③: 単語力に頼らなくても文意を捉えることができるようになる。
9回目		単語テスト / リーディング Part5 ①: 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
10回目		単語テスト / リーディング Part5 ②: 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
11回目		リスニング通しテスト: 実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が分かるようになる。
12回目		長文読解: スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
13回目		長文読解: スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
14回目		長文読解: 前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
15回目		総復習: これまでの総復習をすることでこれからの自分の課題を見つけることができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

公式TOEIC Listening&Reading 問題集4

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (英文法Ⅰ) English Grammar I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員・実務者経験】						
子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指弾に従事。「Mr.Evine」として「Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル」「Mr.Evineのリスニング力向上ブック」「中学英文法を修了するドリル2」(すべてアルク)や学校専売品「英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ」(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。						
【授業の学習内容】						
中学レベルの英文法を日常会話(ビジネス英語も同じ)でどのように用いるのか、実際に会話をする場面をイメージしながら解説をします。基本的な1回の授業の流れは、各Dayで扱う文法ポイントの解説→問題文の解説→演習(口頭英作文)→Jump-Start!のディクテーション(音声を書き取る)で行う。						
【到達目標】						
自分の意見を持ち、自分の英語力で話せるようになる。特に、英語の4技能「読む」「書く」「話す」「聞く」に直接的に影響する英語の語順の基本パターン(文型)、時制、助動詞、疑問詞を用いた疑問文の語順を会話の中で意識して伝える範囲のミスで発信できることを目指す。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション。英文法をどう英会話力につなげるのか理解できる。(今回のHW: ES Day 15)
2回目		現在形と過去形の区別ができる。ES Day 15(今回のHW: ES Day 16)
3回目		未来の表現の区別ができる。ES Day 16(今回のHW: ES Day 17)
4回目		現在形、過去形と進行形の区別ができる。ES Day 17(今回のHW: ES Day 18)
5回目		過去形と現在完了の区別ができる。ES Day 18(今回のHW: ES Day 19&20)
6回目		時制の復習。助動詞の区別ができる①。ES Day 19&20(今回のHW: ES Day 21&22)
7回目		助動詞の区別ができる②。助動詞の復習。ES Day 21&22(今回のHW: ES Day 8)
8回目		不定詞を理解できる。ES Day 8(今回のHW: ES Day 10&11)
9回目		疑問文と否定文、疑問詞が理解できる①。ES Day 10&11(今回のHW: ES Day 12)
10回目		疑問詞が理解できる②。ES Day 12(今回のHW: ES Day 13&14)
11回目		受け身の表現と復習ができる。ES Day 13&14(今回のHW: ES Day 1)
12回目		文型①。ES Day 1(今回のHW: ES Day 2)
13回目		文型②。ES Day 2(今回のHW: 前期試験対策)
14回目		学習内容の総括を行う
15回目		振り返り

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (取り組み姿勢だけではなく毎回のHW小テストを数値化します)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・確認クイズ × 2 (10% × 2) ・前期試験 20%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】
「英文法総合問題集ES ～はじめて編～」 Jump-Start! 英語は39日であまくなる!

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (英文法Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	English Grammar Ⅱ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。

【授業の学習内容】

TOEIC試験では単純な英語力だけでは高得点は望めません。まずは文法のおさらいをし、その後TOEICの各パートごとの傾向と対策を学ぶ。また、それらを踏まえた上で実際に問題をたくさん解き、より本番に近い形での演習を行う。

【到達目標】

12月に控えるTOEIC試験で500点を突破できるような知識を習得する。
また、TOEICを通して中高の英文法を網羅し、あらゆる問題に対応できるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		品詞について①：形容詞の働きが理解できるようになる。
2回目		品詞について②：副詞の働きが理解できるようになる。
3回目		接続詞について①：名詞節の働きが理解できるようになる。
4回目		接続詞について②：副詞節の働きが理解できるようになる。
5回目		文法演習・解説①：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
6回目		文法演習・解説②：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
7回目		リスニング Part1 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
8回目		リスニング Part2 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
9回目		リスニング Part3 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
10回目		リスニング Part4 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
11回目		長文読解：スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
12回目		長文読解：スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
13回目		長文読解：前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
14回目		リスニング通しテスト：実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
15回目		後期学習内容の振り返りと総まとめ：これまでの総復習を行うことでこれから自分が取り組まないといけない課題が見えるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
講師持参資料		

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン英語 (留学英語)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	English for Study abroad	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分 曜日/時限
学科	エアライン科				2	
【担当教員 実務者経験】						
シエラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。						
【授業の学習内容】						
前半部は前期で扱いきれなかった内容や、留学に向けて必要な文法の知識を学ぶ。 中盤から後半にかけては、「童話」をグループ毎に分かれて英訳をしていき最後に全員の前で発表を行う。						
【到達目標】						
来年に控える留学に向けて、文法の基礎が頭に入っているだけでなくそれらを使って表現をすることができるようになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		接続詞①：接続詞の名詞節の使い方が分かるようになる。
2回目		接続詞②：副詞節の使い方が理解できるようになる。
3回目		関係代名詞：関係代名詞の働きを理解できるようになる。
4回目		前置詞：前置詞の役割を理解し、長い文章を作ることができるようになる。
5回目		物語作成「テーマ設定・班決め・役割決め」：これから始動する童話英作文に向けての準備ができるようになる。
6回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
7回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
8回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
9回目		リスニング実践：ネイティブの英語スピーチを正確に聞き取り、自分の意見を述べられるようになる。
10回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
11回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
12回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
13回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
14回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
15回目		物語発表：これまで作成してきた物語をしっかりと相手に伝えることで、自分の英語が通用すると実感できるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】
TOEICテスト 書き込みノート文法編

授業シラバス

科目名 (英)	業界概論 (サービス接遇 I) Hospitality Proficiency I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義	総授業数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
株式会社大丸に入社。人事部採用係とサービス企画推進部に所属しサービスの向上と人材教育に携わる。現在はフリーランスで研修講師として企業で新入社員研修、ビジネスマナー研修、接客研修などを実施。学校では授業(接客、ビジネスマナー、キャリア)、就職活動対策講座、資格対策講座を担当する。						
【授業の学習内容】						
この授業は社会人として必要なサービス接遇の実践的な知識を身につけ、即戦力として求められる人材になること目指します。「サービスとは何か」「接遇とは何か」の理解を深め、ビジネス社会における円滑なコミュニケーションの築き方を学びます。また相手への「思いやりの心」を伝えるという接遇の技法を具体的に身につけて学びます。						
【到達目標】						
知識だけでなく体現することを目指す。接遇を通して良好なコミュニケーションを取ることができる、状況に応じて好印象を与えることができるようになる。サービス接遇検定2級資格取得を促す。						
回数	日にち	授業計画・内容				
1回目		(ガイダンス)授業の進め方、受け方と評価について説明する。サービス接遇検定の概要について確認する。人前で話すことを意識し自己紹介をする。				
2回目		(サービススタッフの資質(1))明るさと誠実さとは何か。適切な判断と表現、身だしなみの重要性を理解できるようになる。身だしなみは次回以降整える。				
3回目		(サービススタッフの資質(2))良識を持った素直な態度、協調性のある行動、清潔感についての理解を学び普段の行動に活かすことができる。				
4回目		サービススタッフの資質の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。				
5回目		(専門知識(1))サービスの意義と機能、種類を学ぶ。グループワークを実施し内容を深めることができる。				
6回目		(専門知識(2))流通の仕組み、商業と経済の用語を学び、グループワークを実施し用語確認する。				
7回目		専門知識の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。				
8回目		一般知識を学習後、ミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。				
9回目		(対人技能(1))人間関係の重要性、顧客心理の理解、訪問のマナー、席次を学び日常生活に活かすことができる。				
10回目		(対人技能(2))敬語、接客用語を学ぶ。知識のみだけでなく敬語を話せるように実技を取り入れ、接客時に活用することができるようになる。				
11回目		対人技能の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。				
12回目		(実務技能(1))苦情対応の基本、掲示文の書き方の基本を学ぶ、ビジネス文書の用語に慣れ、日常でも使うことができるようになる。				
13回目		(実務技能(2))慶弔を学び、水引、上書きの種類と書き方を学び実技を取り入れる。				
14回目		実務技能の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。				
15回目		(授業総括)前期を振り返り総復習する。感じ良く他者に伝えることを意識しながら発表し自己成長を確認することができる。				
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ミニ筆記試験5回実施し、実技評価とする。					
受講生へのメッセージ						
【使用教科書・教材・参考書】						
「らくらく合格！ サービス接遇検定2級+準1級 集中レッスン&問題集」 著者：川村みどり 発行所：(株)ナツメ社						

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン実務 (エアライン実務 I) Practical ailine I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西出 由佳 構木 成美
学科	エアライン科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
エアライン実務に関する基本的知識の習得並びに応用、またロールプレイングによりエアライン接遇の基本を体得する。ビデオ撮影・視聴やフィードバックにより自身の強みと改善点を理解する。							
【到達目標】							
エアライン実務に関する基本的知識を習得し、説明できるようになる。エアラインスタッフとして礎となるエアライン接遇の重要性を理解し、体現できるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション)エアライン実務を学ぶ意義を考え理解する。自身の強みを確認し、目指すCA.GS像をイメージする。
2回目		(エアラインで働く①)目指すCA.GS像を明確にする。(DVD視聴、話し合い、目標設定)
3回目		(エアラインで働く②)航空業界で働く意識を醸成する。
4回目		(エアライン接遇の基本①)エアライン接遇について学び、自身の印象管理の重要性を理解する。演習を通して美しい立ち居振る舞いを体得する。
5回目		(エアライン接遇の基本②)エアライン接遇について学ぶ。接客用語・言葉遣いを学び、誤った敬語や学生言葉を修正する。事例について話し合い、職業理解を深める。
6回目		(航空業界の歩みと現状)航空業界の変換と今後の展望を学ぶことで、どのようなCA.GSが求められているのかを理解する。
7回目		(社会人として働く)「報・連・相」を学び、演習をとおして社会人としてのコミュニケーションの基本を体得する。
8回目		(エアライン実務①)CA/GSの基本業務を学ぶ。事例について話し合い、職業理解を深める。
9回目		(エアライン実務②)機内サービス・チェックインカウンター業務についての実践演習を行い、職業理解を深める。
10回目		(エアライン実務③)接客用語や話し方のポイントを学習し、演習を行うことで普段から使えるようになる。
11回目		(エアライン実務④)空港3レターコードを学ぶ。
12回目		(エアライン実務⑤)アナウンスの基本を学ぶ。演習をとおして発声と話し方の重要性を学ぶ。事例について話し合い、職業理解を深める。
13回目		(グループディスカッション&発表)GDをとおし、チームメンバーとしてのコミュニケーション力や主体性、また協調性を学ぶ。
14回目		前期授業のまとめ
15回目		(前期授業の振り返り)前期の学習内容を復習し、後期の学びに繋げる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験・・・ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
必要に応じてレジュメ、参考資料配布	

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン実務 (エアライン実務Ⅱ) Practical airline II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西出 由佳 構木 成美
学科	エアライン科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							

株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。
現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。

【授業の学習内容】

「エアライン実務」に関する基本的知識の習得並びに応用、またロールプレイングによるエアライン接遇の5ポイントを体得する。更にはビデオ撮影・視聴を通して自身の強みと改善点を理解する。

【到達目標】

グランドスタッフ・キャビンアテンダントを始めとするエアライン業界の職業理解から自己理解を深め、自ら考え行動に移せるリーダーシップを有するエアラインスタッフ育成を目的とする。「エアライン実務」に関する基本的知識の習得はもとより、エアライン業界に従事する者としての礎となるエアライン接遇の理解並びに体現を目標とする。

回数	授業計画・内容
1回目	前期学習内容の定着度を確認、後期授業の目標並びに授業概要とルールの確認し、長期休みの成果発表を行うことができる。
2回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
3回目	クレーム対応の基本を学び、実践演習を通して基本対応を体得する。
4回目	エアライン業界用語を学び、GS/CA業務理解を深める。 機材によって異なる座席番号等、シートコンフィギュレーション全般を学ぶ。
5回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
6回目	GS/CA業務に欠くことのできない基本知識であるエアライン2レターコードの習得度を確認する。
7回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
8回目	アナウンス練習を通して、声のコミュニケーションを習得する。 接客業に必要な基本的な言葉遣いを、実践を通して復習する。
9回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
10回目	eチケットの見方、また時刻表に記載されている内容を理解する。 「日本の国益を守る」というミッションを持つC・I・Qの役割と基本知識を学ぶ。
11回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
12回目	後期試験に向け、授業内容のポイントを復習またロールプレイングを確実なものとする。
13回目	ロールプレイング到達度確認・レポート提出
14回目	後期授業内容の復習。
15回目	エアライン実務の講義を通して習得したスキルとマインドを整理すると同時に、就職活動に向けエアライン業界に求められる人材像を再確認する。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験・・・ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
必要に応じてレジュメ、参考資料配布	

授業シラバス

科目名 (英)	グランドハンドリング実務 (グランドハンドリング実務 I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	Practical Airline I	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	90 6	開講区分 曜日/時限
学科	エアライン科					
【担当教員・実務者経験】						
2000年より事前研修社員として株式会社Kグランドサービスに入社しランプサービス部に所属。以後20年間同部署にて航空機誘導(マーシャリング)、搭載監督者(ロードマスター)の資格を取得後フライト作業の責任者として従事する。現在は教育担当として新入社員の受入教育をはじめ、航空機DOOR資格のインストラクター等の職務を担っている。						
【授業の学習内容】						
グランドハンドリングの総合的な役割を身に付け、実習を通して理解と技術を習得し、就職後即戦力となる。						
【到達目標】						
航空業界に於ける必要最低限の知識の習得およびグランドハンドリングの目的、役割等を学ぶ事を目的とする。又、社会人として自立出来るように組織人としての在り方等を理解する。						

回数	日にち	授業計画・内容
1・2・3回 目		オリエンテーション・グランドハンドリングの役割と重要性・各業務の説明 今後の授業内容の説明・役割の理解と重要性の把握・各部署の役割を理解する
4・5・6回 目		安全について・グランドハンドリングの車両・GSEについて・航空用語と航空機について 安全・車両・GSE・航空用語・航空機の特徴を学び習得する
7・8・9回 目		空港内設備(ランプエリア)の紹介と説明・各業務見学および航空機見学 施設紹介と各部署・航空機の見学を通して空港で働く意識を向上する
10・11・1 2回目		搭降載作業について① 搭降載に必要な知識を身に付けて危険な場所や作業について理解を深める
13・14・1 5回目		搭降載作業について② 各ULDの種類、危険物、タイダウン、指差呼称について学び知識を習得する
16・17・1 8回目		旅客手荷物について 旅客手荷物の流れについて理解する(ソーティング)
19・20・2 1回目		航空貨物について 航空貨物の流れを理解する(輸出入上屋)
22・23・2 4回目		客室クリーニングについて① 客室クリーニングの必要性を理解する
25・26・2 7回目		客室クリーニングについて② 客室クリーニング実践を通して理解を深める
28・29・3 0回目		WEGHT & BALANCE業務について① WEGHT & BALANCEの作成について習得する
31・32・3 3回目		WEGHT & BALANCE業務について② WEGHT & BALANCEの重要性について理解する
34・35・3 6回目		空港内で走行する車両について・搭降載実務 関係法令に基づいた空港で走行する車両の理解と知識を習得する・搭降載見学
37・38・3 9回目		空港内車両運転について①・搭降載実務 空港内車両運転における必要最低限の知識の習得する・搭降載実習
40・41・4 2回目		空港内車両運転について②・搭降載実務 空港内における車両走行の制限および優先車両について理解する・搭降載実習
43・44・4 5回目		前期のまとめ 前期教育内容を振り返り、理解度を確認する

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ 授業内テストの点数
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	グランドハンドリング実務 (グランドハンドリング実務Ⅱ) Practical Airline II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	90 6	開講区分 曜日/時限
【担当教員・実務者経験】						
2000年より事前研修社員として株式会社Kグランドサービスに入社しランプサービス部に所属。以後20年間同部署にて航空機誘導(マーシャリング)、搭載監督者(ロードマスター)の資格を取得後フライト作業の責任者として従事する。現在は教育担当として新入社員の受入教育をはじめ、航空機DOOR資格のインストラクター等の職務を担っている。						
【授業の学習内容】						
グランドハンドリングの総合的な役割を身に付け、実習を通して理解と技術を習得し、就職後即戦力となる。						
【到達目標】						
航空業界に於ける必要最低限の知識の習得およびグランドハンドリングの目的、役割等を学ぶ事を目的とする。又、社会人として自立出来るように組織人としての在り方等を理解する。						

回数	日にち	授業計画・内容
1・2・3回 目		空港内車両運転について③・搭降載実務 空港内における運転規則および標識について学び理解する・搭降載実習
4・5・6回 目		空港内車両運転について④ 空港内における車両事故事例と危険予知ディスカッション
7・8・9回 目		TT車 車両訓練① TT車の役割と使用前点検を理解し、走行実習を行い習得する
10・11・1 2回目		搭降載実務訓練 搭降載実習
13・14・1 5回目		TT車 車両訓練② 走行1(単体走行 前進/後退/旋回/停止)
16・17・1 8回目		搭降載実務訓練 搭降載実習
19・20・2 1回目		TT車 車両訓練③ 走行2(TT車とドローリ-連結および牽引走行 Bドローリ-)
22・23・2 4回目		搭降載実務訓練 搭降載実習
25・26・2 7回目		TT車 車両訓練④ 走行3(牽引走行 カート・Pドローリ-)
28・29・3 0回目		搭降載実務訓練 搭降載実習
31・32・3 3回目		TT車 車両訓練⑤ 走行4(牽引走行 Pドローリ-)
34・35・3 6回目		搭降載実務訓練 搭降載実習
37・38・3 9回目		TT車 車両訓練⑥ 走行5(牽引走行 Pドローリ-連結)
40・41・4 2回目		TT車 車両訓練⑦ 走行6(器材寄せ付け)
43・44・4 5回目		後期のまとめ 後期教育内容を振り返り、理解度を確認する

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業内テストの点数
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	業界サービス (エアライン接客 I) OMOTENASHI Manners I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西出 由佳 構木 成美
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
業界に関わらず社会人のマナーは必要である。 相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。							
【到達目標】							
今後学生という立場から社会人として様々な学びを身に着けていかなければならない。 この授業を通し、まずは就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動出来るレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れ、社会人になるにあたってのマナーを説明。自己紹介を通して現在の自分の姿を確認する。
2回目		(第一印象) 第一印象の大切さを学ぶ。 (身だしなみ) 社会人として求められている身だしなみを学び、実際に身だしなみを整える。
3回目		(挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さを学ぶ。 (表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。表情管理方法を学び、普段の行動に活かすことができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付ける。(クッション言葉)
4回目		(立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いを習得する。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等)
5回目		(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の立ち居振る舞いを振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(肯定表現・敬語)
6回目		(コミュニケーション力) 自身のコミュニケーション力を知り、良いコミュニケーションが与える影響を知る。 (話し方・聴き方) 感じの良い話し方、聴き方を実践を交えて肌で感じるることができる。
7回目		(報告書作成) 報告書の書き方を習得し、実際に記入する。
8回目		(ビジネス文書) ビジネス文書の基礎を学ぶ。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(ビジネスにふさわしい言葉)
9回目		(来客対応の基本) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を習得することができる。
10回目		(言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(ビジネスにふさわしい言葉・話し言葉/書き言葉)
11回目		(電話対応の基本) 社会人として正しい電話対応の仕方を習得することができる。
12回目		(電話対応の基本) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。
13回目		(総復習) 前期で習得した内容を網羅したロールプレイを実施。
14回目		ロールプレイングで理解度と習得度の確認 課題の発見
15回目		(試験解説) 試験の解説後、1年間の振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100とし、40% 計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
パワーポイントを使つての授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。	

授業シラバス

科目名 (英)	業界サービス (エアライン接遇Ⅱ) OMOTENASHI Manners II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西出 由佳 構木 成美
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員_実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
業界に関わらず社会人のマナーは必要である。 相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。							
【到達目標】							
前期に引き続き、まずは就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動できるレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れ説明。社会人になるにあたってのマナーを復習。自己紹介を通して前期からの成長を実感することができる。
2回目		(第一印象) 第一印象の大切さについて復習。 (身だしなみ) 社会人として求められる身だしなみを復習、改善につなげることができる。 (挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さについて復習。
3回目		(表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。ペアで相互チェックを行う。 (立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いについて復習。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等) (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
4回目		(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
5回目		(来客対応の基本) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を習得することができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
6回目		(来客対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
7回目		(報告書作成) 報告書の書き方を復習し、実際に記入する。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる(話し言葉・書き言葉)
8回目		(封筒) 封筒の書き方の基礎を学び、実際に記入する。 (FAX) FAXを送る際のマナーを学ぶ。
9回目		(電話対応) 社会人として正しい電話対応の仕方を復習する。 (言葉遣い) 社会人として正しい言葉遣いを身に付けることができる(電話対応での言葉遣い)
10回目		(電話対応) 電話に出る正しい姿勢・声の出し方を習得することができる。 (言葉遣い) 社会人として正しい言葉遣いを身に付けることができる(電話対応での言葉遣い)
11回目		(電話対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
12回目		(テスト前総復習) 後期で習得した内容を網羅したロールプレイ、言葉遣いの総復習行う。
13回目		ロールプレイングで習得度と理解度の確認。
14回目		初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。
15回目		(総復習) 1年間を通しての質疑応答を行い、自分の行動に自信を持つことができるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
パワーポイントを使つての授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。	

授業シラバス

科目名 (英)	セルフスタイリング (MCTトレーニング I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	MC training I	授業 形態	講義演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

関西一円のホテルやゲストハウス等にて婚礼司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。
CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事をこなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当した。

【授業の学習内容】

相手に『伝える』というのはとても大切です。表情であったり声や活舌、相手の耳にどのように届くのかを考え話す、相手が理解できるように話す、良い印象を残す話し方をする等、様々な観点からみて、話す・伝えるを学ぶ。

【到達目標】

声を出すという基本を学び、人に伝える大切さ、言葉の意味を知り自ら積極的に綺麗な発音と共に挨拶や自己紹介、自信を持って発言ができるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		自分を知る事からスタート (自身の口の開け方や声の出し方声のトーン等、癖を知ることができる)
2回目		腹式呼吸を覚えよう (腹式で声を出す事に意識できるようになる)
3回目		声の出し方と五十音 (発声の大切さと1語1語の重要性を理解することができる)
4回目		単語と息の吐く場所 (単語や文章において、プレスのタイミングを知ることができる)
5回目		滑舌トレーニング (早口言葉で滑舌を鍛える)
6回目		アクセント・イントネーション・ベース・ポーズ (話し方のルールを知ろう)
7回目		自己紹介のプロになる
8回目		短文で慣れる (短い単語や文章を上京に応じて話してみる)
9回目		物語を読むpart 1 (子供向けの絵本を感情込めて読めるようになる)
10回目		物語を読むpart 2 (子供向けの絵本を感情込めて読めるようになる)
11回目		シチュエーション別原稿の読み方part1 (明るく・真面目に・暗く・モノマネ等)
12回目		シチュエーション別原稿の読み方part2 (グループ練習)
13回目		自己紹介+自己PR (面接の場において自己紹介・自己PRをどのようにするかを考えることができる)
14回目		自己紹介+自己PR (面接の場において自己紹介・自己PRをどのようにするかを実践できるようになる)
15回目		まとめ

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・自己紹介+PRを試験とし、その完成度とする

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

講師配布プリント

授業シラバス

科目名 (英)	セルフスタイリング (ヘルスビューティー I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	Health Beauty I	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

2013年 スタジオパキラ入社 ブライダルヘアメイク アシスタントを開始
 2015年 フリーランスとして活躍。
 ブライダルヘアメイクを中心に、企業広告、ファッションショー、sns用ヘアメイク、婚活メイクセミナーなどを行っています。

【授業の学習内容】

基本の就活メイクについて 業界別メイクの特徴を知る
 ①栄養素の働きについて学習する
 ② ライフスタイルにあった健康的な食生活について学習する。

【到達目標】

自分の顔を知り 自分に似合った印象の良いメイクができるようになること
 自分の食生活および食行動の問題点を改善し、健康的かつ美しいbodyとなるようライフスタイルに合わせた実現可能な食事を選択出来るようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		基本の就活メイク① 基礎知識、スキンケア～ベース、アイブロウ
2回目		前回テスト(ベース～アイブロウまで) 基本の就活メイク② アイメイク、チーク、リップ
3回目		基本の就活メイクテスト(フルメイク) 印象の良い顔の作り方 就活用 ヘアスタイル シニヨン
4回目		前回テスト(印象の良い顔) 自分に合う色の見つけ方
5回目		前回テスト(自分に合う色で印象の良いメイク、就活用ヘア) 業界別就活メイク① エアライン(エアライン別メイクの特徴) ホテル、観光
6回目		前回テスト 業界別就活メイク② エアライン(エアライン別メイクの特徴) ホテル、観光
7回目		前回テスト 就活用ヘアスタイル、総復習
8回目		総合テスト、評価 面接前の身だしなみチェック(メイク崩れ対処法など)
9回目		栄養素の働きについて コンビニで購入した食事を確認しながら、栄養素を学び、日常に活かすことができる。
10回目		栄養素の働きについて コンビニで購入した食事を確認しながら、栄養素を学び、日常に活かすことができる。
11回目		中食の選択方法
12回目		自分の食事の問題点を抽出し改善目標をたてる 1か月ごとの授業において、個人の食事を振り返りながら食生活を見つめなおすことができる。
13回目		①食事の問題点が改善されたか振り返る 1回目の授業の知識を忘れていないかを確認することができる。
14回目		②食事の問題点が改善されているか振り返る 前期の授業を振り返りながら、後期への新たな目標を立てる。
15回目		授業の振り返り、まとめ

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・「総合テスト」の点数を換算する

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (英会話Ⅲ) General EnglishⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	エアライン科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

私はシェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

日常生活や、ビジネスなどの様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーションより、今後の授業の目標を理解することができる。自分自身の英語レベルの目標を立てて取り組みを明確にすることができる。
2回目	ビジネス電話でのリクエスト対応や、情報提供が出来るようになる
3回目	ビジネス電話での取次や、メッセージのやり取りが出来るようになる
4回目	クレームについての文化の違いを学ぶ
5回目	対面でのクレーム処理が出来るようになる
6回目	ビジネス電話でのクレーム処理が出来るようになる
7回目	2～6回目の授業内容に対し、ロールプレイングを通し、英語で対応ができるようになる。理解度や改善点を見つけることができる。
8回目	前回のロールプレイングを振り返り、言い換えや対処方法を学ぶことができる
9回目	外貨両替についての英語でのやり取りが出来るようになる
10回目	クレジットカード会社とのやり取りを学ぶ
11回目	支払に関しての対応が出来るようになる
12回目	様々なエージェントとのやり取りを総括的に学ぶ
13回目	8～12回目の授業内容に対し、ロールプレイングを通し、英語で対応ができるようになる。理解度や改善点を見つけることができる。
14回目	全体授業内容から課題を提示し、英語で対応ができるかどうかを確認することができる。
15回目	前回の確認を通して、苦手な点を改善し、より理解を深めることができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話Ⅳ) General English IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	エアライン科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							

シェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

授業の内容はエアラインの現場を想定してロールプレイングを行います。
日本語でシチュエーションを考え、そののちに英会話をとおして対応を行います。

【到達目標】

学生同士で評価や改善点を伝えあい、英語で会話することに慣れること、伝えるためにはどのようにすればよいかを考えることができます。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーションを通し、授業内容を理解することができる。自分自身の英語レベルの目標を立てることができる。
2回目	チェックインカウンター チェックインの現場を想定し、英語の対応を学ぶことができる。
3回目	チェックインカウンター 座席変更・行先変更のお客様の対応ができる。専門用語の単語を学ぶことができる。
4回目	空港での落とし物 GSとお客様になり切って対応することができる。専門用語の単語を学ぶことができる。
5回目	空港での落とし物 座席変更・行先変更のお客様の対応ができる。専門用語の単語を学ぶことができる。
6回目	手荷物検査場 検査員とお客様になり切って対応することができる。専門用語の単語を学ぶことができる。
7回目	手荷物検査場 危険物取扱対応のお客様の対応を行うことができる。専門用語の単語を学ぶことができる。
8回目	2～7回目の授業の振り返りをロールプレイングを通して確認することができる。
9回目	搭乗口 アナウンスを通してご案内ができるようになる。
10回目	搭乗口 遅れた方の対応ができるようになる。
11回目	機内 機内アナウンスができるようになる。
12回目	機内 機内での注意(脱出方法など)を行うことができる。
13回目	機内 お客様対応(お食事提供・販売)ができるようになる。
14回目	役割を決め、一連の流れを通してロールプレイングを行う。(空港内対応)
15回目	役割を決め、一連の流れを通してロールプレイングを行う。(機内対応)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンス I) Core Management Advance I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
学科	エアライン科						
【担当教員 実務者経験】							
<p>プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートルロジ®」の著者。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。1年時に学んだスキルの理解を深めながら応用することで、脳の構造及び心理と自分自身のステイタマネジメントを学ぶ。</p>							
【到達目標】							
<p>1つ目に、心理学的な脳の仕組みを理解する。2つ目に、生まれ持ってきている人間のエネルギーバランスを理解する。そして3つ目に、この2つを使って良好なコミュニケーションスキルを習得し、実生活で活用する。</p>							

回数	授業計画・内容
1・2回目	(オリエンテーション、目標設定) 学習の5段階を説明。5段階目の必要性、目標達成のためのコミュニケーションを理解し、目標設定をする
3・4回目	(フォートルロジ①) 1番強いエネルギーと一番弱いエネルギーを理解する
5・6回目	(フォートルロジ②) 4タイプ別の相性と攻略法を理解する
7・8回目	(フォートルロジ③) 4タイプ別の接客の極意を理解する
9・10回目	(フォートルロジ④) 4タイプ別のノルマに対する反応を理解する
11・12回目	(フォートルロジ⑤) 4タイプ別の指導の仕方、褒め方を理解する
13・14回目	(フォートルロジ⑥) フォートルロジを活用した企画とプレゼンのワークで理解を深める
15・16回目	(一致と不一致、ニューロロジカルレベル) 自分の内面に意識を向けることを理解する
17・18回目	(知覚フィルター、思い込み) 情報の認識は自分の世界観であり、それが外的表現に現れることを理解する
19・20回目	(3人のメンター、存在の承認) 良い助言者の存在や、スポンサーシップを理解する
21・22回目	(モデリング、効果的質問、バリュー) 良いモデルから学ぶスキル、問題解決の質問スキル、価値基準の出し方を理解する
23・24回目	(潜在意識に影響を与える言語モデル) 心理的に作用する言語の組み立て方を理解する
25・26回目	(夏休み課題の確認、NLPの復習) 夏休みの課題を発表する。NLPの復習をして理解を深める
27・28回目	(メタファー、ネステッドループ) たとえ話を使った伝え方、心理に働きかけるプレゼンテーションのスキルを理解する
29・30回目	(影響言語テスト、前期まとめ) 影響言語のテストをする。前期のまとめをして理解を深める
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎制作課題の提出率および完成度100%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構(コアマネジメントアドバンス)	

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンスⅡ) Core Management AdvanceⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
学科	エアライン科					曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。社会生活に向けての、自分自身のステイマネジメント、目標設定の仕方やプレゼンテーション力を高める。

【到達目標】

心理を使い、社会生活に適應できる、コミュニケーション力とプレゼンテーション力を習得する。

回数	授業計画・内容
1・2回目	フォートロジーの復習。社会人としてストレスに打ち勝つための自分を知ることができる。
3・4回目	言語による心理(ミントンモデル)を習得することができる。
5・6回目	診断テスト解説により、自分の気質をより深くかいることができる。
7・8回目	方向性・判断基準の言語の違いを取得することができる。
9・10回目	選択理由・変化・相違対応の言語の違いを取得することができる。
11・12回目	システム・主体性の言語の違いを取得することができる。
13・14回目	影響言語のまとめを行う。
15・16回目	効果的な言語を使ったプレゼンテーションを行うことができる。
17・18回目	比喩・たとえ話を使った伝え方を習得することができる。
19・20回目	長期休みの課題を確認し、復習する。
21・22回目	接客におけるプレゼン知識を身につけることができる。
23・24回目	心理に働きかけるプレゼンテーションの手法を習得することができる。
25・26回目	社会人の目標の作り方と意味を習得することができる。
27・28回目	未来の宝地図を作成する。
29・30回目	未来の宝地図を完成する。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎制作課題の提出率および完成度100%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構(コアマネジメントアドバンス)	

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (華道 I) flower arrangement I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義 実習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
1992年～1995までグラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインを行う。1996年～2010年まで専門学校関連にてグラフィックデザイナー、ディレクション等の仕事を行う。華道歴22年、個人にて華道教室を行って8年。茶道歴15年、茶道教室を行って2年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。						
【授業の学習内容】						
生け花の基礎を学ぶ。(道具の使い方、生け花の歴史、フラワーアレンジメントとの違い、色合わせや花合わせについて、場の演出について、行事と花についてなど。) 生け花の成り立ちを通して、日本人が「自然」とどのように関わってきたかを学ぶ。生け花の歴史を探ると、日本人のものの考え方や精神性は「自然」が大きく関連していることが分かる。それを自覚することは今後の個人の大きな礎になると思われる。						
【到達目標】						
生け花を通じて、日本理解を深める。 花でもてなす楽しさを感じ、空間演出に際して花が重要であるという感性を身につける。 基礎的な「生け花」ができるようになり、花を通じて日本を語れるようになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション)レポートの書き方①免状取得について。ハサミ・剣山の使い方、生け花についての概要を知る。
2回目		(オリエンテーション)レポートの書き方②デッサン 簡潔なデッサンでデザインを他者に伝えられるようになる。
3回目		(オリエンテーション)レポートの書き方③レポートの書き方補足指導 「よくわかる池坊いけばな」DVD鑑賞 更に生け花についての理解を深める。
4回目		(植物の扱い①)水揚げ法 植物を大切に扱う方法を学ぶ。
5回目		(植物の扱い②)矯める方法 植物の動きを生かす技を習得する。
6回目		(作品鑑賞①)教科書の作例を観る 縦・横・斜めの作品の違いが分かるようになる
7回目		(作品鑑賞②)教科書の作例を観る 様々な表現方法を知る。
8回目		(生け花の歴史①)立花・生花・自由花について、それぞれの違いが分かるようになる。
9回目		(生け花の歴史②)生け花の始まり、歴史を知る。
10回目		(花の文化①)日本人の自然観について日本人の自然に対する感じ方を生け花の歴史から学ぶ。
11回目		(花の文化②)日本人と西洋人 それぞれの文化を比較し、花文化の違いを認識することで異文化理解ができるようになる。
12回目		(花の文化③)生け花とフラワーアレンジメントの違い それぞれの違いが理解できるようになる。
13回目		(花のコーディネート①)季節感、色合わせ、花合わせについて ハーモニーの重要性を理解する。
14回目		(花のコーディネート②)場の演出について 花を用いた空間演出の作例を鑑賞し、空間装飾の感性を養う。
15回目		(花のコーディネート③)行事と花について。花と行事の関わりを知り、花でおもてなしができるような感性を養う。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・各回のレポート 90% (レポートの内容+完成度をもって理解度とする) ・各回の実技演習 10%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
いけばな池坊 自由花入門カリキュラム お稽古ノート → 学校より貸出 (都度返却要)	

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (茶道Ⅱ) tea ceremonyⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
大学時に師に出会い入門。2009年専任講師取得。カルチャースクール講師アシスタントとして活動。							
【授業の学習内容】							
茶道の意義、茶道で教えられるおもてなしの心を理解しつつ一碗を共にする喜びを感じ、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。							
【到達目標】							
茶道を学ぶことによって和室での立ち居振る舞いできるようになる。おもてなしの心を身につけ平点前ができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション: 茶道の意義を知る。 薄茶平点前: 風炉 前期の復習
2回目		薄茶平点前: 風炉 お仕舞いまでを学ぶことができる
3回目		薄茶平点前: 風炉 お仕舞いまでを学ぶことができる
4回目		薄茶平点前①: 炉 柄杓の扱い、座る位置、運び出し等を学習することができる
5回目		薄茶平点前②: 炉 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習をすることができる
6回目		薄茶平点前③: 炉 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習をすることができる
7回目		薄茶平点前④: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いを学ぶことができる
8回目		薄茶平点前⑤: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
9回目		薄茶平点前⑥: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
10回目		薄茶平点前⑦: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
11回目		薄茶平点前⑧: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで身につけるようにすることができる
12回目		薄茶平点前⑨: 炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで身につけるようにすることができる
13回目		復習・薄茶平点前
14回目		総復習: 薄茶平点前
15回目		亭主と客にわかれ心をこめて茶を点てる。一期一会の時間を大切にす。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎実技試験100点
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキングⅡ) Walking & Posture II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
<p>大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>フラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。 また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。 外面を整えることは相手に対する思いやりの気持を持つことであり、おもてなしの心を形を表現するためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。 信頼感の与えられる人材を育てる。</p>						
【到達目標】						
<p>就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。 姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。</p>						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーションを行い、授業目標を明確にすることができる。
2回目		男子学生はフラットウォーキング、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンを行う。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)
3回目		男子学生はフラットウォーキング、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンを行う。 所作レッスンでは美しい仕草を学ぶ。(就職活動に活かせるよう実践を交える)ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕草一つで表現できるようになる。
4回目		男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようにする。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようにする。
5回目		2～4回目の授業内容をロールプレイング発表を通して理解度を確認することができる。
6回目		男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びにエレガントに魅せるしゃがみ方等できるようになる。
7回目		男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)を学び、自分にあった普段履きの靴を選ぶことができるようになる。
8回目		男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 シーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)に脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学ぶことができるようになる。
9回目		男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようになる。)
10回目		男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)
11回目		男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
12回目		ペアを組み、お互いに歩き方の確認をし、改善ポイントを見つけることができる。
13回目		ペアを組み、お互いに仕草の確認をし、改善ポイントを見つけることができる。
14回目		今までの授業を踏まえ、課題提示されたロールプレイングを通して理解度を確認することができる。
15回目		前回のロールプレイングの評価を受け、今後の自分自身の姿勢・歩き方を再度みなおすことができる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・姿勢・ヒールウォーキング 60点 ・ジャケットの脱ぎ方たのみ方 40点
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン就職対策III Airline Employment MeasuresIII	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西出 由佳 構木 成美
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員・実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
就職活動に必要な自己分析、企業研究、履歴書/エントリーシートの書き方、面接/筆記対策などを講義、演習を通して身に付けていく。							
【到達目標】							
「エアライン実務」とも連携し、就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動できるレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れを説明。授業に向けての抱負、エアライン就職メイク講座を通して、目指す姿をイメージする。
2回目		(自己分析①) 面接やエントリーシートで自分を存分に表現するために自分自身を振り返る。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
3回目		(自己分析②) 自分自身の長所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
4回目		(自己分析③) 自分自身の短所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
5回目		(企業研究①) エアライン業界における企業研究のコツを説明し、企業研究のイメージをつかむ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
6回目		(企業研究②) 企業研究を通して各企業の特徴を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
7回目		1~6回目の授業内容を反映した振り返りを実施し、今後の課題を認識・改善につなげることができる。
8回目		(エントリーシートの書き方①) 書き方のポイント・表現力を学ぶ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
9回目		(エントリーシートの書き方②) 自己分析を活かして自己PRを書くことができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
10回目		(エントリーシートの書き方③) 企業研究を活かして志望動機を書くことができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
11回目		(面接対策①) 面接の流れ、基礎対策を説明。入室から退室までの一連の流れを確認し、イメージをつかむ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
12回目		(面接対策②) 模擬面接にて自己PRを伝えることができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
13回目		(面接対策③) 模擬面接にて志望動機を伝えることができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
14回目		面接ロールプレイング、模擬筆記試験を行う。
15回目		(総復習) 初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。 前期全体を通しての質疑応答を行い、自信を持って後期授業に臨むことができるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使っの授業。 ・適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。 ・各授業終了前10分間は英語のみで授業を実施する。 		

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅢ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
	TOEICⅢ	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、船後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。

【授業の学習内容】

TOEICスコアUPにつながる中学レベルの基本文法の習得とTOEICらしい英語表現(単語や熟語など)の解説を中心にしますが、ビジネスで用いる英語の中でどのようにTOEIC知識が役立つかの話もしたいと考えています。基本的な授業の流れは以下の通りです。

テキスト問題文の文法ポイント解説→日常会話の中での使われ方の話→音読→時間があれば「銀のフレーズ」の一部解説

【到達目標】

TOEICスコア600点突破を目指す。リスニング 320/495点、リーディング 280/495点。履歴書で注目されるTOEICスコアは800点からですが、平均スコアが580点ほどであることを考えると800の壁は高い。TOEIC600は、自分で英語を自由に学習できるようになるレベルを指します。この辺りから英語ができるようになってきたという自覚が生まれます。まずは、英語力アップの実感をこの前期で感じて欲しいと思います。ちなみに、600点を突破するためには、基礎がある日本人で、400時間程度の勉強時間が必要と言われていますので、皆さんの自宅学習のご協力なくして目標達成はあり得ません。皆さんは授業で伝えた情報を自宅ですっきりとインプットする努力をしてください。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション。TOEICスコアの伸ばし方、単語の覚え方が理解ができる。テキスト p.11-14 (HW: テキストp.11-14を復習)
2回目		品詞の区別ができるようになる。テキスト p.20-25 (HW: テキスト p.20-25をもう一度解く)
3回目		品詞の区別ができるようになる。テキスト p.26-31 (HW: テキスト p.26-31をもう一度解く)
3回目		形容詞と副詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.32-35 (HW: テキスト p.32-35をもう一度解く)
4回目		副詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.36-39 (HW: テキスト p.36-39をもう一度解く)
5回目		進行形/受け身/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.40-43 (HW: テキスト p.40-43をもう一度解く)
6回目		現在完了/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.44-47 (HW: テキスト p.44-47をもう一度解く)
7回目		冠詞/代名詞/前置詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.48-51 (HW: テキスト p.48-51をもう一度解く)
8回目		主語と動詞の関係を理解し、主語や伝えたい内容に合わせた正しい動詞の変化パターンを覚える。テキスト p.62-67 (HW: テキスト p.62-67をもう一度解く)
9回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.74-77 (HW: テキスト p.74-77をもう一度解く)
10回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.82-89 (HW: テキスト p.82-89をもう一度解く)
11回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.90-93 (HW: テキスト p.90-93をもう一度解く)
12回目		修飾表現のパターン。テキスト p.94-99 (HW: テキスト p.94-99をもう一度解く)
13回目		品詞、時制の復習。テキスト p.28-29, 50-51
14回目		品詞、時制の復習。テキスト p.82-83, 98-99/p.52-53
15回目		振り返りとまとめ

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・単語クイズ(銀のフレーズ) 10% × 2
・前期試験 20%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

TOEIC(R) L&Rテスト 英文法 ゼロからスコアが稼げるドリル(授業、前期試験対策で使用)
TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ(単語クイズ対策で使用)

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅣ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
	TOEICⅣ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
<p>子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>文法力に特化した前期とは違い、後期ではリスニング・長文対策を行う。同時に各パートの傾向を掴み、本番でも緊張せずに臨めるだけの知識を身に付ける。また、毎週単語テストを実施して語彙力の増加にも力を入れる。</p>						
【到達目標】						
<p>12月のTOEIC試験で500点を狙える実力をつけられるようになる。 また、就職してからも必要になるTOEICの勉強に備えて、自ら学ぶ方法を会得できるようになる。</p>						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		単語テスト / リスニング Part 1・2 : TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
2回目		単語テスト / リスニング Part3・4 : TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
3回目		単語テスト / リーディング Part6 ① : 前期に習ったことを踏まえて少し長い文章でも文意を捉えることができるようになる。
4回目		単語テスト / リーディング Part6 ②・Part7 ① : たくさんの文章に触れることで、様々な形式の文章に対応できるようになる。
5回目		単語テスト / リーディング Part7 ② : Part7の解き方を習得することで、長文に対する苦手意識を克服できるようになる。
6回目		単語テスト / リーディング Part7 ③ : 単語力に頼らなくても文意を捉えることができるようになる。
7回目		単語テスト / リーディング Part5 ① : 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
8回目		単語テスト / リーディング Part5 ② : 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
9回目		現時点の理解度チェック : 実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
10回目		長文読解 : スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
11回目		長文読解 : スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
12回目		長文読解 : 前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。I
13回目		長文読解 : 前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。II
14回目		振り返りを実施し、自分の弱点を確認する
15回目		総復習 : これまでの総復習をすることでこれからの自分の課題を見つけることができるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	<p>出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。</p> <p>・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。</p>
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
公式TOEIC Listening&Reading 問題集4	

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (英文法Ⅲ) English Grammar III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員・実務者経験】						
子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指弾に従事。「Mr.Evine」として「Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル」「Mr.Evineのリスニング力向上ブック」「中学英文法を修了するドリル2」(すべてアルク)や学校専売品「英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ」(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。						
【授業の学習内容】						
中学レベルの英文法を日常会話(ビジネス英語も同じ)でどのように用いるのか、実際に会話をする場面をイメージしながら解説をします。基本的な1回の授業の流れは、各Dayで扱う文法ポイントの解説→問題文の解説→演習(口頭英作文)→Jump-Start!のディクテーション(音声を書き取る)で行う。						
【到達目標】						
自分の意見を持ち、自分の英語力で話せるようになる。特に、英語の4技能「読む」「書く」「話す」「聞く」に直接的に影響する英語の語順の基本パターン(文型)、時制、助動詞、疑問詞を用いた疑問文の語順を会話の中で意識して伝える範囲のミスで発信できることを目指す。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション。英文法をどう英会話力につなげるのか理解できる。(今回のHW: ES Day 15)
2回目		現在形と過去形の区別ができる。ES Day 15(今回のHW: ES Day 16)
3回目		未来の表現の区別ができる。ES Day 16(今回のHW: ES Day 17)
4回目		現在形、過去形と進行形の区別ができる。ES Day 17(今回のHW: ES Day 18)
5回目		過去形と現在完了の区別ができる。ES Day 18(今回のHW: ES Day 19&20)
6回目		時制の復習。助動詞の区別ができる①。ES Day 19&20(今回のHW: ES Day 21&22)
7回目		助動詞の区別ができる②。助動詞の復習。ES Day 21&22(今回のHW: ES Day 8)
8回目		不定詞を理解できる。ES Day 8(今回のHW: ES Day 10&11)
9回目		疑問文と否定文、疑問詞が理解できる①。ES Day 10&11(今回のHW: ES Day 12)
10回目		疑問詞が理解できる②。ES Day 12(今回のHW: ES Day 13&14)
11回目		受け身の表現と復習ができる。ES Day 13&14(今回のHW: ES Day 1) I
12回目		受け身の表現と復習ができる。ES Day 13&14(今回のHW: ES Day 1) II
13回目		文型①。ES Day 1(今回のHW: ES Day 2)
14回目		文型②。ES Day 2(今回のHW: 前期試験対策)
15回目		振り返りとまとめ

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (取り組み姿勢だけではなく毎回のHW小テストを数値化します)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・確認クイズ × 2 (10% × 2) ・前期試験 20%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】
「英文法総合問題集ES ～はじめて編～」 Jump-Start! 英語は39日であまくなる!

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (英文法Ⅳ) English Grammar IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
		授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
<p>子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>TOEIC試験では単純な英語力だけでは高得点は望めません。まずは文法のおさらいをし、その後TOEICの各パートごとの傾向と対策を学ぶ。また、それらを踏まえた上で実際に問題をたくさん解き、より本番に近い形での演習を行う。</p>							
【到達目標】							
<p>12月に控えるTOEIC試験で500点を突破できるような知識を習得する。 また、TOEICを通して中高の英文法を網羅し、あらゆる問題に対応できるようになる。</p>							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		品詞について①：形容詞の働きが理解できるようになる。
2回目		品詞について②：副詞の働きが理解できるようになる。
3回目		接続詞について①：名詞節の働きが理解できるようになる。
4回目		接続詞について②：副詞節の働きが理解できるようになる。
5回目		文法演習・解説①：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
6回目		文法演習・解説②：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
7回目		リスニング Part1・2 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
8回目		リスニング Part3・4 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
9回目		長文読解：スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
10回目		長文読解：スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
11回目		長文読解：スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
12回目		長文読解：設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
13回目		長文読解：設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
14回目		リスニング理解度チェック：実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
15回目		後期学習内容の振り返りと総まとめ：これまでの総復習を行うことでこれから自分が取り組まないといけない課題が見えるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	<p>出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。</p> <p>・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。</p>
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
講師持参資料	

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座 (手話 I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	
	Sign Language I	授業 形態	講義演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。

【授業の学習内容】

聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。

【到達目標】

職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション 聴覚障害者とのコミュニケーション方法について考える 基本接客用語を学ぶ
2回目		接客の基本である挨拶の手話を学ぶ。指文字を学ぶ(清音)。
3回目		日程や曜日に使う数字を覚える。宿泊費や渡航費、予約日や時間を表現できるようにする。指文字を学ぶ(清音)。
4回目		七條会話や予約の時に使える人や家族、色などの手話を学ぶ。指文字を学ぶ(濁音・半濁音など)。
5回目		仕事や職業の手話を学ぶ。自分の職業を紹介できるようにする。指文字を15回目までに読み取れるようにする。
6回目		趣味の手話を学ぶ。主に日常会話で使えるようにする。指文字の復習。
7回目		疑問の手話を学び、お客様に質問できるようにする。指文字の復習。
8回目		動詞を学ぶ。フロントでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
9回目		楽しいや悲しいなど感情の手話を使ってコミュニケーションすることを学ぶ。指文字の復習。
10回目		テキストの例文を日常生活に置き換え、学習する。カウンターでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
11回目		聴覚障害者との交流会。学習した手話を使ってコミュニケーションする方法を学ぶ。
12回目		前回の交流会を踏まえて、疑問点などの解決方法を学ぶ。
13回目		朝食や夕食、機内食などで使う食べ物の手話を学ぶ。
14回目		1～13回の講義の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目		前期のまとめとこれからの目標(手話技能検定4級受験)について

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・筆記試験(手話技能検定5級) 50点
・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点
・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】 手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座 (手話Ⅱ) sign language Ⅱ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳士として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。						
【授業の学習内容】						
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。						
【到達目標】						
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		前期の復習 接客手話の確認 手話技能検定4級について
2回目		乗り物の手話を学ぶ。道案内や路線についての会話を学習する。
3回目		生活の手話を学ぶ。フロントや受付で使用する筆談について学ぶ。
4回目		形容詞・副詞の手話を学ぶ1。ホテル等で聴覚障害者からの依頼や質問に関する会話を学習する。
5回目		形容詞・副詞の手話を学ぶ2。旅行会社等の会話を学習する。
6回目		施設の手話を学ぶ1。ホテル等、館内施設の紹介や案内の会話を学習する。
7回目		施設の手話を学ぶ2。観光施設での会話を学習する。
8回目		これまでの復習及び数の手話を学ぶ。日常会話を学習する。
9回目		都道府県や地名の手話を学ぶ1。フロントやカウンターでの会話(おすすめの場所等)を学習する。
10回目		都道府県や地名の手話を学ぶ2。ツアーや旅行地での会話(おすすめの場所等)を学習する。
11回目		動詞の手話を学ぶ1。各自就職または就職を希望する分野の会話を考え、その会話を学習する。
12回目		動詞の手話を学ぶ2。今後に向けて聴覚障害者とのコミュニケーション方法を再度確認する。
13回目		手話技能検定4級対策。
14回目		1～13回の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目		後期のまとめとこれからの目標(手話技能検定4級)について
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】 手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級		

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 (海外地理 I) Overseas Geography I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務)。その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。							
【授業の学習内容】							
旅行手配業務の一環として、海外地理を学習します。教本&地図、パンフレット、DVD、PPTを使用して、イメージがわくように、海外地理を学習します。また各自で地理ノートを作成、発表することでより興味もてる様になります。							
【到達目標】							
海外地理3級合格レベルを目指します。旅行業界だけでなく、海外旅行にも役立つ基礎知識を身につけます。							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション&ハワイ(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
2回目	アメリカ(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
3回目	カナダ (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
4回目	オーストラリア (DVD鑑賞、一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
5回目	オーストラリア (ケアンズ、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
6回目	ニュージーランド (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
7回目	韓国 (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
8回目	台湾(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
9回目	中国 (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
10回目	インドネシア、マレーシア、シンガポール(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
11回目	インド&ネパール(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
12回目	カンボジア(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
13回目	ベトナム(一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
14回目	タイ (一般情報、地理、観光名所、名物料理、特産品)等を学び、海外の知識を習得することができる。
15回目	総まとめ(アジアを中心に学んだ知識のまとめをすることで、総復習をすることができる。)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 出席評価50%、授業態度10% 試験20%と課題20%で合計40%とする。課題はレポート作成と発表
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
すぐに役立つ海外ア旅行地理ベーシック400	

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 (海外地理Ⅱ) Overseas Geography II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務)。その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

旅行手配業務の一環として、海外地理を学習します。教本&地図、パンフレット、DVD、PPTを使用して、イメージしましょう。また各自で地理ノートを作成、発表することでより興味をもてる様になります。

【到達目標】

海外地理3級合格レベルを目指します。旅行業界だけでなく、海外旅行にも役立つ基礎知識を身につけます。

回数	授業計画・内容
1回目	世界の航空会社: 授業全体のスケジュールを確認します。世界の様々な国の航空機について学びます
2回目	世界の空港: 世界の様々な国の空港について学びます。就航地ごとの特色・名物について学びます。
3回目	世界の港: クルーズ船が発着する港町について紹介します。
4回目	世界の港: 街の特徴や近隣の観光地について学びます(リゾート地理と連動)
5回目	フィールドワーク: 神戸市の観光名所である北野・異人館 界限を訪れます。異国風の街並みや人気の理由について考えます
6回目	フィールドワークで得た知識や経験を共有します
7回目	世界の物語: 名作といわれる小説・童話・アニメ・映画とその舞台となった観光地や国について調べます。新旧様々な作品に触れて人気の理由を考えます
8回目	世界の物語: 各自で担当作品を決め、物語の背景や舞台となった国や地域について調べます。
9回目	世界の物語: 調べた内容を発表し、バラエティー豊かな世界の物語とその土地の魅力を学びます。
10回目	世界のクリスマス: 国ごとのクリスマス・年末年始の過ごし方について学びます。
11回目	世界のクリスマス: この時期ならではの食事や習慣について紹介します。
12回目	世界のお土産: 国ごとの有名な土産品について学びます。特産品や名物などについても紹介します。
13回目	世界のお土産: お土産品を通じて国ごとの習慣や文化について考えます。日本に帰る時のルールや規制についても学びます。
14回目	世界の食: 国ごとの有名な食事・食材について学びます。ワイン・コーヒーなどの飲料についても紹介します。
15回目	復習 これまでの利式の定着を確認することができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・出席評価50%、授業態度10% 試験20%と課題20%で合計40%とする。課題はレポート作成と発表

【使用教科書・教材・参考書】

すぐに役立つ海外ア旅行地理ベーシック400

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン実務 (エアライン実務Ⅲ) Practical ailine Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
エアライン実務に関する基本的知識の習得並びに応用、またロールプレイングによりエアライン接遇の基本を体得する。ビデオ撮影・視聴やフィードバックにより自身の強みと改善点を理解する。							
【到達目標】							
エアライン実務に関する基本的知識を習得し、説明できるようになる。エアラインスタッフとして礎となるエアライン接遇の重要性を理解し、体現できるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション)エアライン実務を学ぶ意義を考え理解する。自身の強みを確認し、目指すCA.GS像をイメージする。
2回目		(エアラインで働く①)目指すCA.GS像を明確にする。(DVD視聴、話し合い、目標設定)
3回目		(エアラインで働く②)航空業界で働く意識を醸成する。
4回目		(エアライン接遇の基本①)エアライン接遇について学び、自身の印象管理の重要性を理解する。演習を通して美しい立ち居振る舞いを体得する。
5回目		(エアライン接遇の基本②)エアライン接遇について学ぶ。接客用語・言葉遣いを学び、誤った敬語や学生言葉を修正する。事例について話し合い、職業理解を深める。
6回目		(航空業界の歩みと現状)航空業界の変換と今後の展望を学ぶことで、どのようなCA.GSが求められているのかを理解する。
7回目		(社会人として働く)「報・連・相」を学び、演習をとおして社会人としてのコミュニケーションの基本を体得する。
8回目		(エアライン実務①)CA/GSの基本業務を学ぶ。事例について話し合い、職業理解を深める。
9回目		(エアライン実務②)機内サービス・チェックインカウンター業務についての実践演習を行い、職業理解を深める。
10回目		(エアライン実務③)接客用語や話し方のポイントを学習し、演習を行うことで普段から使えるようになる。
11回目		(エアライン実務④)空港3レーターコードを学ぶ。
12回目		(エアライン実務⑤)アナウンスの基本を学ぶ。演習をとおして発声と話し方の重要性を学ぶ。事例について話し合い、職業理解を深める。
13回目		(グループディスカッション&発表)GDをとおし、チームメンバーとしてのコミュニケーション力や主体性、また協調性を学ぶ。
14回目		(グループディスカッション&発表)GDをとおし、チームメンバーとしてのコミュニケーション力や主体性、また協調性を学ぶ。
15回目		前期の学習内容を復習し、後期の学びに繋げる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験・・・ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
必要に応じてレジュメ、参考資料配布		

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン実務 (エアライン実務IV) Practical airline IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							

株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。
現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。

【授業の学習内容】

「エアライン実務」に関する基本的知識の習得並びに応用、またロールプレイングによるエアライン接遇の5ポイントを体得する。更にはビデオ撮影・視聴を通して自身の強みと改善点を理解する。

【到達目標】

グランドスタッフ・キャビンアテンダントを始めとするエアライン業界の職業理解から自己理解を深め、自ら考え行動に移せるリーダーシップを有するエアラインスタッフ育成を目的とする。「エアライン実務」に関する基本的知識の習得はもとより、エアライン業界に従事する者としての礎となるエアライン接遇の理解並びに体現を目標とする。

回数	授業計画・内容
1回目	前期学習内容の定着度を確認、後期授業の目標並びに授業概要とルールの確認し、長期休みの成果発表を行うことができる。
2回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
3回目	クレーム対応の基本を学び、実践演習を通して基本対応を体得する。
4回目	エアライン業界用語を学び、GS/CA業務理解を深める。 機材によって異なる座席番号等、シートコンフィギュレーション全般を学ぶ。
5回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
6回目	GS/CA業務に欠くことのできない基本知識であるエアライン2レターコードの習得度を確認する。
7回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
8回目	アナウンス練習を通して、声のコミュニケーションを習得する。 接客業に必要な基本的な言葉遣いを、実践を通して復習する。
9回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
10回目	eチケットの見方、また時刻表に記載されている内容を理解する。 「日本の国益を守る」というミッションを持つC・I・Qの役割と基本知識を学ぶ。
11回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
12回目	後期試験に向け、授業内容のポイントを復習またロールプレイングを確実なものとする。
13回目	ロールプレイング到達度確認・レポート提出
14回目	試験内容の振り返りと後期授業内容の復習。
15回目	エアライン実務の講義を通して習得したスキルとマインドを整理すると同時に、就職活動に向けエアライン業界に求められる人材像を再確認する。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験・・・ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
必要に応じてレジュメ、参考資料配布	

授業シラバス

科目名 (英)	業界サービス (エアライン接客Ⅲ) OMOTENASHI MannersⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
業界に関わらず社会人のマナーは必要である。 相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。							
【到達目標】							
今後学生という立場から社会人として様々な学びを身に着けていかなければならない。 この授業を通し、まずは就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動出来るレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れ、社会人になるにあたってのマナーを説明。自己紹介を通して現在の自分の姿を確認する。
2回目		(第一印象) 第一印象の大切さを学ぶ。 (身だしなみ) 社会人として求められている身だしなみを学び、実際に身だしなみを整える。
3回目		(挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さを学ぶ。 (表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。表情管理方法を学び、普段の行動に活かすことができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付ける。(クッション言葉)
4回目		(立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いを習得する。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等)
5回目		(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の立ち居振る舞いを振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(肯定表現・敬語)
6回目		(コミュニケーション力) 自身のコミュニケーション力を知り、良いコミュニケーションが与える影響を知る。 (話し方・聴き方) 感じの良い話し方、聴き方を実践を交えて肌で感じるすることができる。
7回目		(報告書作成) 報告書の書き方を習得し、実際に記入する。
8回目		(ビジネス文書) ビジネス文書の基礎を学ぶ。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(ビジネスにふさわしい言葉)
9回目		(来客対応の基本) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を習得することができる。
10回目		(言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(ビジネスにふさわしい言葉・話し言葉/書き言葉)
11回目		(電話対応の基本) 社会人として正しい電話対応の仕方を習得することができる。
12回目		(電話対応の基本) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。
13回目		(総復習) 前期で習得した内容を網羅したロールプレイを実施。
14回目		ロールプレイング演習
15回目		1年間の振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100とし、40% 計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
パワーポイントを使つての授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。	

授業シラバス

科目名 (英)	業界サービス (エアライン接遇Ⅳ) OMOTENASHI MannersⅣ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
		授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員_実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
業界に関わらず社会人のマナーは必要である。 相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。							
【到達目標】							
前期に引き続き、まずは就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動できるレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れ説明。社会人になるにあたってのマナーを復習。自己紹介を通して前期からの成長を実感することができる。
2回目		(第一印象) 第一印象の大切さについて復習。 (身だしなみ) 社会人として求められる身だしなみを復習、改善につなげることができる。 (挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さについて復習。
3回目		(表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。ペアで相互チェックを行う。 (立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いについて復習。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等) (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
4回目		(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
5回目		(来客対応の基本) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を習得することができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
6回目		(来客対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
7回目		(報告書作成) 報告書の書き方を復習し、実際に記入する。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる(話し言葉・書き言葉)
8回目		(封筒) 封筒の書き方の基礎を学び、実際に記入する。 (FAX) FAXを送る際のマナーを学ぶ。
9回目		(電話対応) 社会人として正しい電話対応の仕方を復習する。 (言葉遣い) 社会人として正しい言葉遣いを身に付けることができる(電話対応での言葉遣い)
10回目		(電話対応) 電話に出る正しい姿勢・声の出し方を習得することができる。 (言葉遣い) 社会人として正しい言葉遣いを身に付けることができる(電話対応での言葉遣い)
11回目		(電話対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(復習テスト)
12回目		(テスト前総復習) 後期で習得した内容を網羅したロールプレイ、言葉遣いの総復習を行う。
13回目		ロールプレイング演習
14回目		初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。
15回目		(総復習) 1年間を通しての質疑応答を行い、自分の行動に自信を持つことができるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
パワーポイントを使った授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。	

授業シラバス

科目名 (英)	セルフスタイリング (MCTトレーニングⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	MC trainingⅡ	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	エアライン科					曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

関西一円のホテルやゲストハウス等にて婚礼司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。
CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事をこなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当した。

【授業の学習内容】

相手に『伝える』というのはとても大切です。表情であったり声や活舌、相手の耳にどのように届くのかを考え話す、相手が理解できるように話す、良い印象を残す話し方をする等、様々な観点からみて、話す・伝えるを学ぶ。

【到達目標】

声を出すという基本を学び、人に伝える大切さ、言葉の意味を知り自ら積極的に綺麗な発音と共に挨拶や自己紹介、自信を持って発言ができるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		自分を知る事からスタート (自身の口の開け方や声の出し方声のトーン等、癖を知ることができる)
2回目		腹式呼吸を覚えよう (腹式で声を出す事に意識できるようになる)
3回目		声の出し方と五十音 (発声の大切さと1語1語の重要性を理解することができる)
4回目		単語と息の吐く場所 (単語や文章において、プレスのタイミングを知ることができる)
5回目		滑舌トレーニング (早口言葉で滑舌を鍛える)
6回目		アクセント・イントネーション・ベース・ポーズ (話し方のルールを知ろう)
7回目		自己紹介のプロになる
8回目		短文で慣れる (短い単語や文章を上京に応じて話してみる)
9回目		物語を読むpart 1 (子供向けの絵本を感情込めて読めるようになる)
10回目		物語を読むpart 2 (子供向けの絵本を感情込めて読めるようになる)
11回目		シチュエーション別原稿の読み方part1 (明るく・真面目に・暗く・モノマネ等)
12回目		シチュエーション別原稿の読み方part2 (グループ練習)
13回目		自己紹介+自己PR (面接の場において自己紹介・自己PRをどのようにするかを考えることができる)
14回目		自己紹介+自己PR (面接の場において自己紹介・自己PRをどのようにするかを実践できるようになる)
15回目		まとめ

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・自己紹介+PRを試験とし、その完成度とする

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

講師配布プリント

授業シラバス

科目名 (英)	セルフスタイリング (ヘルスビューティーⅡ) Health Beauty II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分
					2	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
2013年 スタジオパキラ入社 ブライダルヘアメイク アシスタントを開始 2015年 フリーランスとして活躍。 ブライダルヘアメイクを中心に、企業広告、ファッションショー、sns用ヘアメイク、婚活メイクセミナーなどを行っています。						
【授業の学習内容】						
基本の就活メイクについて 業界別メイクの特徴を知る ①栄養素の働きについて学習する ②ライフスタイルにあった健康的な食生活について学習する。						
【到達目標】						
自分の顔を知り 自分に似合った印象の良いメイクができるようになること 自分の食生活および食行動の問題点を改善し、健康的かつ美しいbodyとなるようライフスタイルに合わせた実現可能な食事を選択出来るようになる。						
回数	日にち	授業計画・内容				
1回目		基本の就活メイク① 基礎知識、スキンケア～ベース、アイブロウ				
2回目		前回テスト(ベース～アイブロウまで) 基本の就活メイク② アイメイク、チーク、リップ				
3回目		基本の就活メイクテスト(フルメイク) 印象の良い顔のつくり方 就活用 ヘアスタイル シニヨン				
4回目		前回テスト(印象の良い顔) 自分に合う色の見つけ方				
5回目		前回テスト(自分に合う色で印象の良いメイク、就活用ヘア) 業界別就活メイク① エアライン(エアライン別メイクの特徴) ホテル、観光				
6回目		前回テスト 業界別就活メイク② エアライン(エアライン別メイクの特徴) ホテル、観光				
7回目		前回テスト 就活用ヘアスタイル、総復習				
8回目		総合テスト、評価 面接前の身だしなみチェック(メイク崩れ対処法など)				
9回目		栄養素の働きについて コンビニで購入した食事を確認しながら、栄養素を学び、日常に活かすことができる。				
10回目		栄養素の働きについて コンビニで購入した食事を確認しながら、栄養素を学び、日常に活かすことができる。				
11回目		中食の選択方法				
12回目		自分の食事の問題点を抽出し改善目標をたてる 1か月ごとの授業において、個人の食事を振り返りながら食生活を見つめなおすことができる。				
13回目		①食事の問題点が改善されたか振り返る 1回目の授業の知識を忘れていないかを確認することができる。				
14回目		②食事の問題点が改善されているか振り返る 前期の授業を振り返りながら、後期への新たな目標を立てる。				
15回目		授業の振り返り、まとめ				
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・「総合テスト」の点数を換算する					
受講生へのメッセージ						
【使用教科書・教材・参考書】						